



平成25年4月、南豫明倫館に7人の新入寮生がやってきた。故郷を離れ、同じ釜の飯を食べながら切磋琢磨し、東京での共同生活を送る。夢と希望にあふれた楽しい時間も、油断すると、遊びの時間だけが過ぎ去ってしまう。「4年間は長い」と思うのは錯覚。見聞を広げ、人間を磨いてほしい。4月21日には歓迎会を開き、南豫奨学会理事や先輩を交えて、新入寮生の仲間入りを祝った。



入寮生の言葉

見聞を広げ、人間を磨こう 25年4月7人が入寮、新生活がスタート

入寮生氏名(大学・学部、出身地)
 1 自己紹介 2 将来の抱負

横山 尊(日本大学・経済学部、八幡浜市)

1 明倫館で様々なことを学び将来につなげたいと思います。よろしくお願ひします。

2 僕は出版関係の仕事に就きたいと思っていますので、そのために大学でしっかりと様々なことを学びます。

赤松 浩介(国士舘大学・21世紀アジア学部、宇和島市)

1 高校の時も新田高校で寮生活をしていました。人間関係を大切にし、たのしい4年間にしたいと思っています。よろしくお願ひします。

2 スポーツに関係した仕事につきたいです。

本城 航(帝京平成大学・健康メデイカル学部、宇和島市)

1 趣味、音楽を聴く、漫画を読むという名の読書ゲーム、スポーツ観戦(みるだけ)。寝る時が一番幸せだと思います。

2 作業療法士になって、身体に障害のある人を助けていきたいと思っています。

上田 祥一朗(明治大学・商学部、宇和島市)

1 これから4年間、この伝統ある南豫明倫館で勉学に励み、礼儀やマナーを身に付け立派な大人になるために、充実した生活を送りたいと思います。よろしくお願ひします。

2 私は将来、起業家として世の中のニーズを的確に判断し、それに応えるような商品を提供したいと考えています。そのため商学の勉強をしっかり行い、夢の実現へ努力します。

宮下 樹(上智大学・経済学部、愛南町)

1 東京での生活に慣れて上京してきました。趣味のサッカーを通じてたくさん友達を作り、東京での大学生活を充実させたいです。よろしくお願ひします。

2 専門である経済学はもちろんですが外国語学習にも力を入れて、グローバル化の進む社会で第一線で活躍できる人材になりたいです。もしくは田舎でのんびり教員生活。

6月30日現在 平成25年度在寮生 大学・出身高校一覧

在籍大学	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計	
出身高校	八幡浜	宇和島東	宇和島南	南宇和	帝京第五	松山東	新田	済美	済美平成	その他																	
1 東京大	1																									10	
2 東京海洋大		1																									24
3 東京工業大			1																								4
4 東京農工大				1																							2
5 青山学院大					1																						1
6 慶応大						1																					2
7 国学院大							1																				2
8 国士舘大								1																			2
9 駒澤大									1																		2
10 上智大										1																	2
11 専修大											1																2
12 拓殖大												1															2
13 帝京大													1														1
14 帝京平成大														1													1
15 東京経済大															1												1
16 東京工大																1											1
17 東京農大																	1										1
18 日本大																		1									1
19 日大法政大																			1								1
20 明治学院大																				1							1
21 立教大																					1						1
22 立正大																						1					1
23 早稲田大																							1				1
24 その他																											2
合計	3	1	1	1	1	1	1	2	2	1	2	1	1	1	1	4	1	6	1	8	1	1	1	1	4	2	49

※大学院生3人を含む。

加洲 陽太(青山学院大学・法学部、愛南町)

1 高校時代は陸上部に所属し、競歩で三度の全国大会を経験することができました。大学では全国入賞を目指しながら、文武両道を続けていきたいです。

2 将来の夢は公務員です。私は地元がとても大好きなので、愛媛県のために貢献できる職に就きたいです。明倫館では、大学で習わない事を学び、将来に生かしていきたいです。

八十島 旭伸(明治大学・理工学部、松山市)

1 中学までは野球、高校のときはボートをやっていて、スポーツをするのは比較的好きな方です。寮の先輩方と生活するようなことは初めてなので、徐々に慣れていきたいです。

2 寮の生活を通して、社会で生きていく上での礼儀を身につけるとともに自立心を育て、将来は大学などの研究施設で研究員として働くことができるよう日々努力したいと思う。

公益財団法人 南豫奨学会 「奨学金支援会」だより

一層のご支援をお願いいたします

公益財団法人南豫奨学会・奨学金支援会
 理事長・会長 伊達 宗信

平素は公益財団法人南豫奨学会と南豫明倫館の運営にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、南豫奨学会の平成二十五年度の「奨学金支援会」には、六月三十日現在、七十二人(二法人を含む)から百二十三万千円の支援金が寄せられました。皆様方のご厚意に感謝申し上げます。すべて寮生の奨学金として貸与させていただきます。本年度は七人に年間総額四百二十万円を貸与します。

南豫奨学会の奨学金貸与は、本年度までに三十二人、総額五千五百万円の実績を挙げました。しかし、奨学金貸与の基金としてはまだまだ僅少で、皆様方のお力添えが一層必要です。つきましては、奨学金貸与金の基金となる年会費として、一口(普通会員一万円、特別会員二万円)南豫奨学会評議員・理事(二万円、法人会員五万円)以上のご支援を賜れば幸甚に存じます。未来を担う人材の育成すなわち教育こそ郷土発展の基礎だと確信しています。

郵便振込口座番号 〇一五〇一―二九六五三
 名義 「南豫奨学会奨学金支援会」

平成25年度 支援会 募金状況

(平成25年6月30日現在)

	募金数	募金額(円)
理事・監事・顧問	9人	306,000
評議員・審議員	23人	420,000
O B	21人	240,000
現・元保護者	11人	115,000
一般	6人	80,000
法人	2社	70,000
市町	0市	0
合計	72(人・社・市)	1,231,000

※前回と統計の取り方を変えました。選定委員は評議員・審議員に含みます。

フィリピン留学 in バギオ

早稲田大学商学部 四年 清水 敦史

私は今年の二月の終わりから、フィリピンのバギオ市というところで語学学校の日本人スタッフとして働きながら、英語の勉強をしています。ほとんどの人がフィリピンと聞くと南国のビーチで暑いところを想像すると思いますが、バギオはとても涼しく、山なので海がありません。従ってビキニフィリピーナを拝む機会もあまりありません。もうこちらに来て二カ月と三週間が経とうとしています。そこでフィリピンで学んだこと、気づいたこと、またなぜフィリピンに留学しようと思ったのかを書きたいと思います。

まず初めになぜ英語を勉強しようと思ったか、そしてなぜ留学先にフィリピンを選んだか



▲日韓の友達と一泊二日の小旅行(左端)=ハンドレッド島 ▲グループクラスの授業風景(右端)

を書きたいと思います。私が英語を勉強しようと思ったきっかけは、喋れた方が人生楽しくなりそうだなと思ったのが正直な最初の理由です。それから英語の参考書を大学の友達と買いに行き、勉強をスタートしました。

とは言ったものの、実は私は英語が大の苦手です、勉強を始めるまではSVOやSVCなどの意味が分からず、更には副詞が何なのかさえ分からないほどでした。大学で受けたTOEICのスコアがあまりに低く、ゼミの教授に「清水君は早稲田の恥だねえ」と笑いながら言われたことを覚えています。しかし、今まで逃げ続けてきた英語からもう逃げたくないという思いと就職活動をした中で芽生えた、場所を問わず世界で活躍できる人間になりたいという思いから、途中まで続けていた就職活動を辞め、フィリピンへの長期留学を決意しました。

次に、私がなぜ留学先にフィリピンを選んだのか。理由は大きく分けて三つあります。一つ目は価格が他の英語圏の留学に比べ、ものすごく安いことです。学校にもよりますが一月、授業料、宿泊費、食費等込みで約二十万円程で英語を学ぶことができます。また物価も安いので千円あれば三軒ほど飲んで回れ、週末は朝まで飲んでいられることもよくあります。

二つ目はマンツーマンの授業を受けられることです。これがフィリピン留学を決めた一番の大きな理由です。欧米の語学学校のほとんどがグループクラスのみで他の生徒と一緒に授業を受けます。それに比べフィリピンでは先生と一対一で授業を進めることができるため、自分のペースで自分のレベルにあったことができるといえます。

現在私は学生スタッフですが、マンツーマン百分×2コマ、グループクラス百分×2コマをとっており、授業だけで一日四百分英語を学んでいます。四百分と聞くと頭がパンクしてしまいがちですが、習ったことをすぐに使え、また先生たちと楽しくお喋りしながら学ぶことも多いので、モチベーションも高まります。体力的に疲れることはありませんが、精神的に授業が嫌になることは私の場合今のところありません。三つ目は同世代の韓国人学生、台湾人学生と

共に学べることです。最近、韓国企業の勢いが凄まじいことはみなさんもご存知だと思います。そこで将来ライバルとなるであろう同世代の韓国人学生がどのような意識で英語を勉強しているのか、それについて興味があったことも理由のうちの一つです。この三つが私がフィリピン留学を選択した主な要因です。

次にフィリピンに来て学んだことを紹介したいと思います。主に三つです。一つ目は、日本が素晴らしい国だということです。フィリピンにきていかに自分が恵まれた環境の中で育ってきたのか実感しました。フィリピンの道路は凸凹、停電はしょっちゅう、シャワーはお湯が出れば優れ物(シャワーがない家も普通です)、食べ物が新鮮かどうかは自分の目で確かめなければならぬ等。日本に比べると当たり前に前過ぎて気づかないことも多々あります。月一回くらいは生徒がケイタイを取られた、財布を盗まれたという話を聞きます。私はこっちにきてから貴重品はポケットに絶対に入れないようになり、また常に肌身離さず持つようになりました。そしていくらか安がよくなってきたとはいえず、危ないところは絶対に近づかないようにしています。私の学校でも二十四時間銃を肩からかけた警備員が監視をしています。特に選挙の日には争いが多く危険と言われており、フィリピンでは選挙の日にはほとんどのお店でアルコールを販売していません。

三つ目は、韓国人学生の意識の高さです。どの学生に聞いてもみんな自分の夢を持っていて、そのために英語の勉強に励んでいます。韓国では日本よりも就職するのが難しらしく、TOEIC、TOEIC SPEAKING の高得点は必須のことです。中には中国語もペラペラでフィリピンで英語を学んだ後はパイロットになるためにアメリカに行くと言っている学生

もいました。他の学生と将来のことについて話すことは私にとってもとても大きな刺激になり、モチベーションにもつながっています。以上三つが私がフィリピンに来て主に学んだことです。フィリピンに来たばかりのころは全くコミュニケーションがとれず、最初の何日かはベッドでYouTubeを見ながら日本から持ってきたじゃがりこを食べるといって日々が続きました。しかし丁寧な先生に教えてくださる先生方のおかげで現在では、グループクラスで韓国人学生と台湾人学生と英語でデイベートができるようになり、CNNニュースも少し聞けるようになってきました。休日は先生や同期の生徒たちと飲みに出かけ、そこで会ったフィリピン人や欧米の方とも会話できるまでになりました。また五カ月間こちらの生活が残っているのが精一杯勉強に励み、より多くのことを吸収して帰りたいと思います。私はフィリピンで英語はもうそろそろ、今までの常識では考えられないことも数多く経験し、様々なことを学んでいます。留学するか悩んでいたときに相談に乗っていただき、背中を押していただいた戸梶主事、本館理事、明倫館の同期、両親にはとても感謝をしております。明倫館のみなさんも、もし今やりたいことがあるのなら挑戦してみてください。

南豫明倫館再興60周年記念式典

秋に宇和島と東京で開催

南豫明倫館は昭和28年、東京・上目黒に再興して今年で60周年を迎えました。秋には宇和島と東京でそれぞれ、60周年記念式典を開催します。宇和島は10月12日(土曜)午後5時から、JR宇和島駅前の宇和島自動車会館で、東京では11月16日(土曜)正午から、千代田区紀尾井町のホテルニューオータニで開催します。出席、欠席については、あらためてご案内します。同時に南豫明倫館OBの名簿を作成します。ご協力をお願いします。

公益財団法人南豫奨学会
南豫明倫館OB会

今月の言葉

欲するものが手に入る時は警戒せよ
映画「ダウンタウンヒーローズ」から
憧れを知る者のみ、
わが悩みを知らしめ
ゲート

解説

昭和二十三年の松山高校(翌年から新制愛媛大学)の生徒の青春を描いた映画「ダウンタウンヒーローズ」(山田洋次作品)は同校の「弊衣破帽」「放歌高吟」の寮生活を描いた作品だが、「欲するものが手に入る時は警戒せよ」は国文の教授が最後に語る言葉。
欲望はほどほどに、夢ならばいいけれど。

南豫明倫館館長 木下 博民

編集後記

- ▼南豫明倫館にも夏がやってきました。中庭の一本の桜の木は、庭全体を覆うように大きく枝を広げ、緑陰をつくっています。
- ▼四月から四月月ほどが経ち、新入寮生七人は高校生から大人の顔つきに変わり、戦う「七人の侍」になってきました。先輩に顔を覚えられない同輩とも仲良くやっています。大学にも慣れ、友達もできたようです。
- ▼近くの都立野川公園のグラウンドで夜七時過ぎから、寮生有志が野球をやるといふので妻と見に行きました。普段あまり運動とは縁のなさそうな寮生が懸命にボールを追っかける姿を見て、頼もしく思いました。
- ▼全国の学生寮が集まる学生寮協議会という組織があります。愛媛県内の四寮のうち二寮を含め三十九寮が参加しています。他寮との交流はますます活発になるでしょう。
- ▼南豫明倫館の学生はよく挨拶をします。共同生活の基本も学べます。就職情報も集まります。OBや保護者の皆様も、南豫明倫館への人寮を呼びかけていただくようお願いいたします。(戸梶)